



拡張および接続機能の設定

- 拡張および接続機能の設定のワークフロー (1 ページ)
- ユーザ モビリティの有効化 (1 ページ)
- CTI リモート デバイスの作成 (2 ページ)
- リモート接続先の追加 (3 ページ)

拡張および接続機能の設定のワークフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ユーザ モビリティの有効化 (1 ページ)	ユーザのモビリティを有効にし、ユーザを CTI リモート デバイスの所有者として割り当てることができます。
ステップ 2	CTI リモート デバイスの作成 (2 ページ)	CTI リモート デバイス、仮想デバイス モニタを作成し、ユーザのリモート接続先の通話を制御します。
ステップ 3	リモート接続先の追加 (3 ページ)	(オプション) 専用 CTI リモート デバイスをユーザにプロビジョニングする場合は、Cisco Unified Communications Manager にリモート接続先を追加します。

ユーザ モビリティの有効化

この作業は、デスクトップ クライアント専用です。

CTI リモート デバイスをプロビジョニングするには、ユーザ モビリティを有効にする必要があります。ユーザのモビリティが有効でない場合、そのユーザを CTI リモート デバイスの所有者として割り当てることはできません。

始める前に

この作業は、次の場合にのみ該当します。

- CTI リモート デバイスに Mac 版 Cisco Jabber または Windows 版 Cisco Jabber のユーザを割り当てる予定である。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以降である。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] を選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが開きます。

ステップ 2 [ユーザを次の条件で検索 (Find Users where)] フィールドで適切なフィルタを指定した後、[検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得します。

ステップ 3 ユーザを一覧から選択します。

[エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [モビリティ情報 (Mobility Information)] セクションを探します。

ステップ 5 [モビリティの有効化(Enable Mobility)] を選択します。

ステップ 6 [保存 (Save)] を選択します。

CTI リモート デバイスの作成

CTI リモート デバイスは、ユーザのリモート接続先をモニタリングし、通話を制御する仮想デバイスです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

ステップ 4 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから [CTI リモート デバイス (CTI Remote Device)] を選択します。続いて [次へ (Next)] を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] ドロップダウンリストから対象のユーザ ID を選択します。

(注) [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] ドロップダウンリストには、モビリティの有効化が利用可能なユーザのみが表示されます。詳細については、「クライアントでの SAML SSO の有効化」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager は [デバイス名 (Device Name)] フィールドをユーザ ID と [CTIRD] 接頭辞から生成します。例としては、[CTRID ユーザ名 (CTIRDusername)] となります。

ステップ 6 必要に応じて、[デバイス名 (Device Name)] フィールドのデフォルト値を編集します。

ステップ 7 [プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)] セクションの [再ルーティング コーリング サーチ スペース (Rerouting Calling Search Space)] ドロップダウンリストから、適切なオプションを選択してください。

[再ルーティング コーリング サーチ スペース (Rerouting Calling Search Space)] ドロップダウンリストは、再ルーティングのコーリング サーチ スペースを定義します。これにより、ユーザは CTI リモート デバイスからコールを発信および受信できるようになります。

ステップ 8 必要に応じて、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのその他の設定も指定します。

詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』の「*CTI remote device setup*」のトピックを参照してください。

ステップ 9 [保存 (Save)] を選択します。

電話番号を関連付け、リモート接続先を追加するには、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのフィールドから設定します。

リモート接続先の追加

リモート接続先とは、ユーザが利用できる CTI 制御可能デバイスです。

ユーザに専用 CTI リモート デバイスをプロビジョニングする場合、**Cisco Unified CM Administration** インターフェイスを使用してリモート接続先を追加する必要があります。このタスクにより、クライアントの起動時に、ユーザは自動的に電話を制御し、コールを発信できます。

ユーザにソフトフォン デバイスおよびデスクフォン デバイスとともに CTI リモート デバイスをプロビジョニングする場合、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを使用してリモート接続先を追加しないでください。ユーザは、クライアント インターフェイスを使用してリモート接続先を入力できます。



- (注)
- ユーザ 1 人につき 1 つのリモート接続先を作成する必要があります。ユーザに対して複数のリモート接続先を追加しないでください。
 - Cisco Unified Communications Manager は、**Cisco Unified CM Administration** インターフェイスで追加したリモート接続先がルーティング可能かどうかを確認しません。そのため、追加するリモート接続先を Cisco Unified Communications Manager がルーティングできることを確認する必要があります。
 - Cisco Unified Communications Manager は、自動的に CTI リモート デバイスのすべてのリモート接続先番号にアプリケーション ダイアル ルールを適用します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [電話を次の条件で検索 (Find Phone where)] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択して電話の一覧を取得します。
- ステップ 4** 一覧から CTI リモート デバイスを選択します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 5** [関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)] セクションを探します。
- ステップ 6** [新規リモート接続先の追加 (Add a New Remote Destination)] を選択します。
[リモート接続先情報 (Remote Destination Information)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 7** JabberRD を [名前 (Name)] フィールドに指定します。
制約事項 [名前 (Name)] フィールドに JabberRD を指定する必要があります。クライアントは JabberRD リモート接続先のみ使用します。JabberRD 以外の名前を指定した場合、ユーザはそのリモート接続先にアクセスできません。
- ユーザがクライアントインターフェイスを使用してリモート接続先を追加すると、クライアントは JabberRD 名を自動的に設定します。
- ステップ 8** [接続先番号 (Destination Number)] フィールドに接続先番号を入力します。
- ステップ 9** 必要に応じて他の値をすべて指定します。
- ステップ 10** [保存 (Save)] を選択します。

次のタスク

次の手順を実行してリモート接続先を確認し、CTI リモート デバイスに設定を適用します。

1. 手順を繰り返し、CTI リモート デバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。
2. [関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)] セクションを探します。
3. リモート接続先が利用可能であることを確認します。
4. [設定の適用 (Apply Config)] を選択します。



(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [デバイス情報 (Device Information)] セクションには、[アクティブなリモート接続先 (Active Remote Destination)] フィールドが含まれています。

ユーザがクライアントでリモート接続先を選択すると、そのリモート接続先は [アクティブなリモート接続先 (Active Remote Destination)] の値として表示されます。

次の場合、[アクティブなリモート接続先 (Active Remote Destination)] の値として [none] が表示されます。

- ユーザがクライアントでリモート接続先を選択しない場合。
- ユーザが退出した場合、またはクライアントにサインインしていない場合。

